さくらそう通信 No13

2021 年 2 月

丸々とした蕗の薹がかおをだして、上では梅が満開となり、暖かな春を感じます。さくらそうは植えつけも済み、はや、可愛らしい芽が出てきました。嬉しい時です。今年の株のできはいかがでしょうか。立派な芽が地下でできあがっているかと、掘り上げる時の嬉しさは格別です。鉢が乾燥してしまい　黒くしぼんだものがでてくると、がっかりです。

これからは　芽が出る、芽が少しずつ伸びることが楽しみとなりますね。

今年は開花が早いように思います。

中学校の正門の桜

早く　大きくなあれ

私の大好きな節分草、増えてきました。

徳川将軍とさくらそう

前にもふれましたがさくらそうの歴史について、一説に「江戸初期の将軍が荒川の付近の鷹狩に赴いた時に、野辺に咲く可憐な花に眼を止め、江戸城に持ち帰り栽培したことが始まりであろうと」記された本があります。

また、「その昔、徳川の末期にあたりましょうか、久しい泰平の夢に見飽きた諸大名や旗本連中が、手なぐさめに作り始めたといわれる奥ゆかしい花である。」ともあり、これらのことからみると、さくらそうは江戸時代初期に見いだされ、末期に盛況をきわめたものといえます。

（野生のサクラソウ）東京山草会による

清水宏明さんちの広い庭ではプリムラマラコイデスが咲きはじめ、可愛い水仙・ミニ水仙も色をそえています。テイタテイトですが舌を噛みそうな名前ですね